

美学・西洋美術史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
美学特論 I	美学特論 I	2	フォンガロ エンリコ	2学期	水	2	
美学・西洋美術史特論 I	ネーデルラント美術とは何か	2	尾崎 彰宏	1学期	金	3	美学・西洋美術史特論 I
美学・西洋美術史特論 II	ネーデルラント絵画と感性の論理	2	尾崎 彰宏	2学期	金	3	美学・西洋美術史特論 I
芸術学特論 I	エロティック革命としての のルネサンス美術	2	足達 薫	2学期	月	4	芸術学特論
美学・西洋美術史研究演習 I	美学・西洋美術の諸問題	2	尾崎 彰宏	1学期	金	5	美学・西洋美術史研究 演習 I
美学・西洋美術史研究演習 II	美学・西洋美術の諸問題	2	尾崎 彰宏	2学期	金	5	美学・西洋美術史研究 演習 II
美学研究演習 I	美学研究演習 I	2	フォンガロ エンリコ	1学期	木	5	西洋美術史研究演習 I

科目名：美学特論 I / Aesthetics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LM23208， 科目ナンバリング：LIH-ART608J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

美学特論 I

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics (Advanced Lecture I)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を読み、理解する。この文献に基づき、美学の専門的なテーマについて分析、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The course aims to read and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse and reflect on topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対照しながら、美学の専門的なテーマについて分析、考察を行う。本年度は、ハイデガーの美学を中心に取り上げ、芸術作品とは何かについて特に論ずる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, and analysed by the students. This year, the course will deal with the question of what is a work of art, focusing on Heidegger's aesthetics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 西洋美学史とは
2. 導入 現代美学について
3. ハイデッカーと 20 世紀の哲学
4. ハイデッカーの美学：『芸術作品の起源』(1)
5. ハイデッカーの美学：『芸術作品の起源』(2)
6. 『芸術作品の起源』：芸術作品とは
7. 『芸術作品の起源』：物と作品 (1)
8. 『芸術作品の起源』：物と作品 (2)
9. 『芸術作品の起源』：物と作品 (3)
10. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (1)
11. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (2)
12. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (3)
13. 『芸術作品の起源』：芸術家とは
14. 『芸術作品の起源』：美的経験とは
15. 期末試験

8. 成績評価方法：

定期試験 (100%)。

9. 教科書および参考書：

マルティン・ハイデッカー、『芸術作品の起源』。

10. 授業時間外学習：

Martin Heidegger, Der Ursprung des Kunstwerkes.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lect

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：1学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM15303， 科目ナンバリング：LIH-ART609J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

ネーデルラント美術とは何か

2. Course Title (授業題目)：

What is the Netherlandish art?

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術がその背景をなす美学とどのような関係をもちながら、生みだされたのかを探っていききたい。その問題と並行して、アルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていききたい。受講生は、美術作品を通して、その時代の美学とそれがどのように社会や文化の形成にかかわって行ったのかを学ぶことになる。

現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Currently, based on the research results of "Historical Studies of Market, Distribution and Art Stores in Western pre-modern Art in Geopolitical and Economic History" which I am studying, it is clarified how Netherlandish Art has a relationship with its aesthetics and art theory. Along with that problem, a new attempt of "visual" seen in northern European art works, that is, how tactile elements are reflected in art work, I am planning to explore various painters such as Arcimboldo and Boss. Students will learn through art works the aesthetics of that era and how they are involved in the formation of society and culture.

It is my subject currently being studied and I am to show the picture in the first lesson.

5. 学習の到達目標：

美術作品とその時代の美学を学ぶアプローチは多様である。この授業では、鑑賞者の感性が作品解釈にどのようにかわるのか、受容美学の視点から考えてみたい。そこから、芸術がどのようなアクチュアリティをもつのかを考え、新たな美学理論の可能性を探りたい。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Various approaches have been made to decipher art works. but students establish their own ideas how to understand the sensitivity of the viewer has an impact on interpretation for a large amount of works and learn new methodology to approach art works.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：初期ネーデルラント美術とその美学Ⅰ：ファン・エイクを中心に

第3回：初期ネーデルラント美術とその美学Ⅱ：ロヒール・ファン・デル・ウェイデンからメムリンクまで

第4回：初期ネーデルラント美術とその美学Ⅲ：写実性から観念性への転換

第5回：16世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅰ：ボッスの新しさ

第6回：16世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅱ：ロマニストの芸術

第7回：16世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅲ：「故郷」の発見

第8回：17世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅰ：イコノクラスムからジャンルの多様性へ

第9回：17世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅱ：風俗画の成立

第10回：17世紀ネーデルラント美術とその美学Ⅲ：静物画の成立

第11回：レンブラントⅠ 初期様式と同時代芸術

第12回：レンブラントⅡ：中期と工房

第13回：レンブラントⅢ：後期様式と市場

第14回：18世紀ネーデルラント美術とその美学

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書： 教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅱ／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lect

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM25302， 科目ナンバリング：LIH-ART610J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

ネーデルラント絵画と感性の論理

2. Course Title (授業題目)：

Netherlandisch Paintings and the Logic of Sensibility

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術がその背景をなす美学とどのような関係をもちながら、生みだされたのかを探っていききたい。その問題と並行して、アルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていききたい。受講生は、美術作品を通して、その時代の美学とそれがどのように社会や文化の形成にかかわって行ったのかを学ぶことになる。

現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Currently, one of my research topics is "Research on geopolitical economic history of markets, distribution, and artisans in Western art since the Renaissance". I would like to explore how the creativity of Nedelandish art was born while raising the research results. In parallel with that problems, as a history of art as the theory of sensibility, a new attempt of "visual" seen in art works north of the Alps, how tactile elements are reflected in various artists' works, such as Giuseppe Arcimboldo and Hieronimus Bosch, I would like to approach their efforts while taking various Netherlandish painters as examples.

5. 学習の到達目標：

美術作品とその時代の美学を学ぶアプローチは多様である。この授業では、鑑賞者の感性が作品解釈にどのようにかかわるのか、受容美学の視点から考えてみたい。そこから、芸術がどのようなアクチュアリティをもつのかを考え、新たな美学理論の可能性を探りたい。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Various approaches have been made to decipher art works. but students establish their own ideas how to understand the sensitivity of the viewer has an impact on interpretation for a large amount of works and learn new methodology to approach art works.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：15世紀前半のネーデルラントにおける美術市場の誕生Ⅰ

第3回：15世紀後半のネーデルラントにおける美術市場の誕生Ⅱ

第4回：16世紀南部ネーデルラントにおける美術市場の展開Ⅰ

第5回：16世紀北部ネーデルラントにおける美術市場の展開Ⅱ

第6回：偶像破壊運動と絵画ジャンルとそこに見られる美学

第7回：偶像破壊運動と絵画ジャンルの多様化と芸術論Ⅱ

第8回：17世紀オランダにおける美術市場と新たな美意識の誕生

第9回：17世紀オランダにおける美術市場の発展と絵画の黄金時代Ⅰ

第10回：ルーベンスの芸術論第9回：17世紀オランダにおける美術市場の発展と絵画の黄金時代Ⅱ

第11回：ルーベンス工房と絵画市場Ⅱ

第12回：レンブラント工房と絵画市場Ⅰの芸術論

第13回：レンブラント工房と絵画市場Ⅱ

第14回：南北一デルランの絵画市場から18世紀フランスへ——自由の美学の誕生へ

第15回：まとめ

定期試験は行わない。

8. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する

9. 教科書および参考書： 教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：芸術学特論 I / Aesthetics and Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：足達 薫（教授）

講義コード：LM21406， 科目ナンバリング：LIH-ART611J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：芸術学特論】

1. 授業題目：

エロティック革命としてのルネサンス美術

2. Course Title (授業題目)：

Renaissance Art as an "Erotic Revolution"

3. 授業の目的と概要：

近年、イタリア・ルネサンス美術の研究では、同時代の「エロティック革命」（性愛やそれが産み出すユーモアを肯定的に捉える新しい文化的意識）との関連性が注目され、多くの新しい発見がなされています。この授業では、美術と身体的愛が強く結びついた興味深い事例を分析しながら、イタリア・ルネサンスに関する新しい観点と研究方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In recent years, research on Italian Renaissance art has focused on the relationships with the 'erotic revolution' (a new cultural consciousness that positively considers sexuality and the humor it produces), and has made many new discoveries. In this class, students learn new perspectives and research methods on the Italian Renaissance while analyzing interesting cases where art and physical love are firmly linked.

5. 学習の到達目標：

(1) イタリア・ルネサンス美術を「エロティック革命」として捉える新しい研究動向を理解すること。(2) 身体的愛に関連する絵画や彫刻を視覚的に分析するための観点および方法を習得すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) To understand new research trends that regard the Italian Renaissance art as an 'erotic revolution'. (2) To learn viewpoints and methods for visually analyzing paintings and sculptures related to physical love.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

全 15 回の講義を行います。なお、資料作成の過程で内容および順番を変更することがあります。また、性行為や性的部位を露骨に表す描写や作品はしばしば差別的であり、不快感を与える可能性があること（授業では可能な限り中立的で客観的に解説します）を理解したうえで受講してください。

1. プロローグ：チェッリーニ『自伝』における美術と愛
2. 展覧会「ルネサンス期イタリアにおける美術と愛」（2008）の意味
3. 古代彫刻の魅惑と魔力
4. オウィディウス『変身物語』とイタリア・ルネサンス
5. 聖愛と俗愛のパラドックス
6. 生活空間（1）：恋人たちの寝室
7. 生活空間（2）；書斎
8. 生活空間（3）浴室
9. 生活空間（3）出産
10. 愛のメディアとしての肖像画
11. 男根礼賛
12. 同性愛のイメージ
13. キリストのセクシュアリティ
14. ボルノグラフィの誕生
15. エピローグ：再びチェッリーニ『自伝』へ

8. 成績評価方法：

出席状況（30%）と課題レポート（2 回予定、70%）を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

作品と引用をまとめた資料を配付します。参考書等は授業で指示します。

10. 授業時間外学習：

とりあげる美術家や美術作品（授業で予告します）に関して図書やウェブで概観しておくことで授業の理解が進みます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

授業の前後に相談を受け付けます。連絡、質問、相談、研究室訪問については下記アドレスに e メールを送ってくださってもかまいません。kaoru.adachi.d1@tohoku.ac.jp（□はアットマークに変えて送ってください）

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Semi

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM15504， 科目ナンバリング：LIH-ART612J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

美学・西洋美術の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Problems of Methodology on Western Art History

3. 授業の目的と概要：

美学・西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる方法について議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We will pick up journal papers and topics of research on Western art history, carefully read them, learn about the problems and research methods that can be utilized for research, and will continue discussions. We mainly focus on papers published in The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek.

5. 学習の到達目標：

美学・西洋美術史の最新研究を学びながら、ルネサンス以降の美術と芸術論（美学）の研究動向を学ぶことができる。作品をマテリアルなものとしてだけでなく、その時代の社会や美意識が深くかかわっていることを理解する能力が身につく。と同時に、英文を精読するスキルが身につく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be familiar with research trends of art works since the Renaissance, while in touch with the latest research in Western art history. As well as acquiring criticism and ability to analyze works, students will acquire the skill to carefully read English.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回： イントロダクション

第2回： 初期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅰ

第3回 盛期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅱ

第4回 後期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅲ

第5回 初期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅰ

第6回 16世紀ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅱ

第7回 イコノクラスム期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅲ

第8回 17世紀前半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅰ

第9回 17世紀後半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅱ

第10回 17世紀前半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅰ

第11回 17世紀後半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代18世紀美術とその美学関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代19世紀美術とその美学関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代20世紀美術とその美学関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

プリントを配布し、必要なことは教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Semi

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM25504， 科目ナンバリング：LIH-ART613J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

美学・西洋美術の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Problems of Methodology on Western Art History

3. 授業の目的と概要：

美学・西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる方法について議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We will pick up journal papers and topics of research on Western art history, carefully read them, learn about the problems and research methods that can be utilized for research, and will continue discussions. We mainly focus on papers published in The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek. We will pick up an interesting part from the latest research books to be published in the first half of 2018. (Since this exercise is continued from the previous term, it is preferable to take both I and II)

5. 学習の到達目標：

美学・西洋美術史の最新研究を学びながら、ルネサンス以降の美術と芸術論（美学）の研究動向を学ぶことができる。作品をマテリアルなものとしてだけでなく、その時代の社会や美意識が深くかかわっていることを理解する能力が身につく。と同時に、英文を精読するスキルが身につく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students can acquire skills to carefully read English texts while being familiar with research trends of art works since the Renaissance while touching the latest research in Western art history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回： イントロダクション

第2回： 初期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅰ

第3回 盛期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅱ

第4回 後期イタリア・ルネサンス美術とその美学関係文献Ⅲ

第5回 初期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅰ

第6回 16世紀ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅱ

第7回 イコノクラスム期ネーデルラント美術とその美学関係文献Ⅲ

第8回 17世紀前半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅰ

第9回 17世紀後半のオランダ美術とその美学関係文献Ⅱ

第10回 17世紀前半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅰ

第11回 17世紀後半のフランドル美術とその美学関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代18世紀美術とその美学関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代19世紀美術とその美学関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代20世紀美術とその美学関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることを求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

10. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることを求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学研究演習Ⅰ／Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 木曜日 5講時

semester：1学期，単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LM14502，科目ナンバリング：LIH-ART614J，使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：西洋美術史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

美学研究演習Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を精読し、理解する。美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論をする能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The course aims to read carefully and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse, give presentations and discuss about topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対象しながら、美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論を行う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, analysed and discussed by the students.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ドゥルーズとは誰か
2. ドゥルーズとシネマ
3. 『シネマ1』：運動に関するテーゼ
4. 『シネマ1』：フレームとショット
5. 『シネマ1』：モンタージュ
6. 『シネマ1』：モンタージュ
7. 『シネマ1』：イメージとは
8. 『シネマ1』：知覚イメージ
9. 『シネマ1』：感情イメージ
10. 『シネマ1』：欲動イメージ
11. 『シネマ1』：行動イメージ
12. 『シネマ2』：時間イメージ
13. 『シネマ2』：時間イメージ
14. 『シネマ2』：時間イメージ
15. 試験

8. 成績評価方法：

授業中に指示した文献に関する口頭試験（100%）。

9. 教科書および参考書：

ジル・ドゥルーズ、『シネマ1、運動イメージ』、『シネマ2、時間イメージ』。

10. 授業時間外学習：

Gilles Deleuze, Cinema 1, L' image-mouvement; Cinema 2, L' image-temps.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

毎回の授業後に、授業でとりあげた映画を見ることが必須である。映画の上映については授業時に詳しく説明する。

